

世田谷文学館

2025 年度

年報

2026年度カレンダー

企画展

2026.4.18 土 — 6.14 日

「本が世界、世界が本。」 松岡正剛 千夜千冊の贈りもの

2026.6.30 火 — 9.6 日

「やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ」

2026.10.3 土 — 2027.2.7 日

ヤマザキマリ展 (仮題)

2027.3.6 土 — 5.9 日

岩井俊二展 (仮題)

コレクション展

2026.4.18 土 — 9.6 日

「没後30年 宇野千代展 一恋と創作の若き日々」

2026.9.26 土 — 2027.3.28 日

「没後30年 宇野千代展 一わたしと生きて行く私」

※展覧会の詳細は中面をご覧ください

やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ

2026年6月30日(火)～9月6日(日)

漫画家、詩人、絵本作家、イラストレーター、デザイナー、編集者など多彩な活動を繰り広げたやなせたかし(1919-2013)の初の大規模巡回展。「人を喜ばせること」が人生最大の喜びであったやなせの思いは、どのように生まれ、深められていったのか――。

本展は、貴重な原画約 200 点を中心に、「やなせたかし大解剖」「漫画」「詩」「絵本／やなせメルヘン」「アンパンマン」のテーマで作品を紐解きます。私たちに勇気を与え続ける作品を是非ご覧ください。



会場	2階展示室
観覧料	一般1500円ほか

『ボオ氏』より『鳩とトビウオの巻』1967年
『アンパンマン伝説』『ばいきんまん登場』1997年
©やなせたかし

(公財)やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団蔵



ヤマザキマリ展 (仮題)

2026年10月3日(土)～2027年2月7日(日)

漫画家・画家・文筆家として活躍を続けるヤマザキマリ。代表作『テルマエ・ロマエ』や手塚治虫文化賞大賞を受賞した『プリニウス』(とり・みき共著)などの漫画作品をはじめ、『国境のない生き方』『扉の向う側』などの自伝的エッセイや、人生論・芸術論の著作の数々でも幅広い人気を博しています。本展では、漫画原稿や油彩画作品などを展示するとともに、波乱万丈の人生経験から紡がれた、確かな言葉を多数紹介します。ヤマザキマリの世界観と人生観にも迫る、大規模展覧会です。

会場	2階展示室
観覧料	一般1500円ほか



© ヤマザキマリ / スマイルカンパニー Photo : ノザワヒロミチ

岩井俊二展 (仮題)

2027年3月6日(土)～5月9日(日)

現代を代表する映画監督のひとり・岩井俊二。『Love Letter』(1995)『スワロウテイル』(1996)『リリイ・シュシュのすべて』(2001) から、近年の『キリエのうた』(2023) にいたるまで、詩的な映像のなかにも常に新しい表現手法と主題を追い求め、唯一無二の作品群を生み出してきました。本展は、映画作品はもちろん小説・音楽・絵画など多方面から岩井俊二の〈物語世界〉に迫る、初めての大型企画展です。

会場 | 2階展示室

観覧料 | 一般1500円ほか



シーズン展示

「本が世界、世界が本。」 松岡正剛 千夜千冊の贈りもの

2026年4月18日(土)～6月14日(日)

独自の視点で世界を読み解く「編集工学」を確立し、日本の知の風景に大きな足跡を残した孤高の編集者・松岡正剛(1944-2024)の代表的プロジェクトのひとつ『千夜千冊』を、新たなかたちでご紹介する展覧会です。一冊の本が世界の見え方を変え、世界の出来事がまた新たな一冊へとつながっていく——。その往還のなかで立ち上がる「本が世界、世界が本。」という体験を、ぜひ会場でお楽しみください。

会場 | 1階文学サロン

観覧料 | 無料



photo : Table Ensemble

〈前期〉没後30年 宇野千代展 ―恋と創作の若き日々―

2026年4月18日(土)～9月6日(日)

〈後期〉没後30年 宇野千代展 ―わたしと生きて行く私―

2026年9月26日(土)～2027年3月28日(日)

『色ざんげ』『おはん』『生きて行く私』など、現代を生きる私たちの道しるべともなる名作を残した作家・宇野千代（1897-1996）。若き日には東郷青児とともに世田谷・淡島に暮らし、華やかな交友関係のなかで独自の作家人生を切り拓きました。本展は、令和5年度に世田谷文学館へ寄贈された宇野千代旧蔵資料を、前期・後期に分けて年間を通して紹介するものです。

前期では、岩国での少女時代から『おはん』連載開始前後の50歳頃までに焦点を当て、「色ざんげ」の自筆原稿、東郷青児からの書簡、北原武夫との中国旅行の日記、日本初のファッション誌『スタイル』、愛用の着物など多彩な資料を展示します。恋と創作に生き、時代を先駆けるスタイルを貫いた宇野千代の若き日の姿に迫ります。

後期では、昭和22年から平成8年までの後半生を紹介します。隆盛を極めたスタイル社の倒産や北原武夫との別れなど、前半生につづき波乱の人生を歩む宇野千代ですが、一方で代表作『おはん』の完成や「薄墨の桜」「八重山の雪」の執筆など作家としての円熟期を迎えます。昭和57年（84歳）の新聞連載「生きて行く私」はこれまでの人生を回想したもので、翌年刊行されると、ベストセラーとなりました。着物のデザイナーなど多方面でも晩年まで精力的に活躍した千代の軌跡を辿りながら、その生活と人柄をご紹介します。

会場 | 1階展示室

観覧料 | 一般 220円 / 高校・大学生 170円 / 65歳以上 110円 / 中学生以下 110円
※団体料金、障害者割引あり



宇野千代 雑誌「スタイル」を編集していた頃
(昭和14年9月18日)



宇野千代・東郷青児 旧蔵コーヒーカップセット
世田谷・淡島の新居で使用していたドイツ製のコーヒーカップセット

会員制サービス 「セタブンパス」

2023 年より開始した、「セタブンパスポート事業」（通称セタブンパス）は、世田谷文学館（セタブン）と、利用者をつなぐ会員制サービスです。1 年単位で会員を募集、年に複数回文学館を利用してくださるお客様に、より充実したサービスをお届けすることを目的としています。会員の募集期間は、毎年9月1日から30日までの期間限定となっています。



特典内容 (一部)

- ① 企画展&コレクション展チケットプレゼント
- ② ミュージアムショップ 商品の割引(一部)
- ③ 「喫茶どんぐり」ドリンク2杯無料
- ④ 〈新世田谷文学賞〉への作品応募資格
- ⑤ 会員限定メールマガジンの配信
- ⑥ イベントの先行申込(一部) など

詳細はこちら



新世田谷文学賞

令和7年度応募期間 | 2025年10月1日～10日
昔から数多くの作家たちが住まい、作品に描いた世田谷区ならではの区民の創作支援の文学賞として第36回まで開催された世田谷文学賞は、令和7年度から「新世田谷文学賞」として装いも新たにスタートしました。年度ごとに散文、短詩形文学の各部門での実施を予定しており、令和7年度は散文の小説・エッセイ部門を募集したところ、区内在住、在学、在勤の方々と2025年度セタブンパス会員から104篇もの力作が集まりました。今回の第1席～第3席の受賞作と、選考委員の堀江敏幸氏（作家）の選評は当館HPにてお読みいただけます。



受賞作・選評はこちら



令和8年度は短歌・俳句部門で実施予定です。
詳しくは世田谷文学館HPでお知らせします。

2025年度（令和7年度） 年間事業報告（総括）

2025年度（令和7年度）は世田谷文学館が開館30周年を迎え、皆様の多大なご協力により、記念シンポジウム・文学講座他記念の催事を多数開催することができました。

企画展は2本実施しました。「士郎正宗の世界展～『攻殻機動隊』と創造の軌跡～」は、当館がこれまで取り組んできた、漫画・SF・80年代サブカルチャー展示の集大成であり、かつ、これからの活動を見据えての新たなチャレンジとなりました。士郎正宗さんはメディアには登場しない神秘的な漫画家で、今回もご登場することはありませんでしたが、展覧会会場には士郎さんのお人柄がうかがえる楽しい自作解説を多数寄せてくださり、作家本人の言葉とともに作品を鑑賞することができたと大好評でした。また、昨今の展覧会では記念グッズ販売も欠かせない要素となっており、本展では1階に特設会場を設置し、ご来場者の皆様にお楽しみいただくことができました。

もうひとつの企画展は「ドナルド・キーン展 Seeds in the Heart」を開催しました。日本人以上に日本を知り、その魅力を伝え続けたキーンの生涯をととして、日本文化・文学とは何かをあらためて問いかけようと企画しました。木材を多用した「和」の展示空間で、「キーンさん」のパーソナルな部分もふんだんにご紹介しました。



1



2



3



コレクション展は前期、「海野十三と日本SF」と題して、日本SFの父・

海野十三を軸に、海野を愛読して育ち、その後の日本SF文学を築いた作家たちの活躍をご紹介します。同時期の企画展「士郎正宗の世界展」との相乗効果もあり、予想以上の入場者がありました。後期は「世田谷線・100年間のものがたり」と題して、沿線に住んだ作家たちや、地域を舞台に描かれた作品を紹介し、地域文学の豊かさを存分にお伝えしました。

資料関連では、インターネット資料検索システムも、一層充実してまいりました。そして、今年度の資料調査研究の成果として、「世田谷文学館収蔵資料〈調査と研究〉03」を刊行しました。今回は、初公開の「横溝正史日記 昭和10年、昭和23年、昭和30年、昭和32年」、海野十三発・横溝正史あて書簡計77通、またインタビュー2編、「父と娘の日記からたどる、横溝正史の面影」野本瑠美氏（横溝正史次女）、「海野十三と家族の記憶」坂井陽子氏（海野十三次女）・鈴木江利氏（海野十三孫）も収録した充実の内容となりました。

その他、セタブンマーケット、文学館ゆかりの作家やアーティストを招いたさまざまなイベントを実施しました。「新世田谷文学賞」も再開し、31年目を迎える次年度に向けての、確かな一歩をまた進めることができました。



セタブンマーケット2025の様子

- 1 士郎正宗の世界展～『攻殻機動隊』と創造の軌跡～
2025年4月12日(土)～8月17日(日)
- 2 ドナルド・キーン展 Seeds in the Heart
2025年11月15日(土)～2026年3月8日(日)
- 3 セタブンマーケット2025
2025年11月29日(土)、30日(日)
- 4 世田谷文学館開館30周年記念 セタブン30祭

士郎正宗の世界展～『攻殻機動隊』と創造の軌跡～

2025年4月12日(土)～8月17日(日)

会場：2階展示室

1985年に商業デビューした士郎正宗は、1989年に代表作『攻殻機動隊』の連載を開始し、現在に至るまで熱狂的な人気を博しています。本展では、現在までの活動をたどる士郎正宗年譜から始まり、漫画の描き方、『アップルシード』『攻殻機動隊』などの作品やイラストワークを紹介、〈アナログ原稿〉を含む約440点を展示する、初の大規模展覧会となりました。初公開となる原稿を通して、士郎の特徴である「膨大な情報量の描きこみ」を体感、作家のコメントでたどる展示は「士郎正宗」のパーソナルな部分にも触れる機会となりました。

世田谷文学館がこれまで取り組んできた〈漫画〉〈SF〉展示の集大成となった本展は、海外での人気も高い士郎ファンが国内外問わず多く訪れ、好評を博しました。



© Shirow Masamune/「士郎正宗の世界展」製作委員会
撮影：阿野太一

ドナルド・キーン展 Seeds in the Heart

2025年11月15日(土)～2026年3月8日(日)

会場：2階展示室



展示風景 撮影：栗原論

10代で源氏物語に出会い、日本文学の道に進んだドナルド・キーン。日本文学者としてのキーンの軌跡を辿り、膨大な仕事の数々やその人柄を紹介しました。木の格子を基調とした空間に、キーンの自筆資料をはじめ、講演メモや諸作家との交流の様子がわかる書簡、身の回りの愛用品などを展示。キーンの生涯と文学の魅力を感じられる展覧会となりました。

また、展覧会に関連して様々なイベントも開催されました。記念講演、記念対談のほか、狂言・歌舞伎会や浄瑠璃の演奏会など日本文化を再発見する機会になりました。

前期コレクション展／海野十三と日本SF

2025年4月26日(土)～9月28日(日)

会場：1階展示室



世田谷で作家生活のほとんどを過ごした＜日本SFの父＞海野十三（1897～1949）。通信省に努める技術者だった海野は、1928年に異色の探偵作家としてデビュー、戦前から戦後にかけて数々の空想科学小説を書き、絶大な人気を博しました。本展では、SFのパイオニアとして

の軌跡を追いつつ、横溝正史や小栗虫太郎との友情、さらにはその影響を色濃く受けた手塚治虫、小松左京、星新一、豊田有恒、筒井康隆らSF第一世代の仕事もご紹介し、マンガ、アニメ、映像、ゲームへと表現の幅を広げ、次代に受け継がれていく日本SFの想像力の源流に迫りました。なお、本展は2026年春、海野の故郷・徳島県で巡回展として開催されることになりました。



展示風景 撮影：鈴木渉

後期コレクション展／世田谷線・100年間のものがたり

2025年10月18日(土)～2026年3月31日(火)

1925年、玉川電気鉄道（現・東急電鉄）の支線として開通した世田谷線。1969年に渋谷～二子玉川園間の本線が廃線となったことで、世田谷区内だけを走る独立した路線となりました。開通から100年、世田谷線は三軒茶屋～下高井戸間の5.0kmを結ぶ2両編成の路面電車として、今日も世田谷のまちなかを走っています。

世田谷線の沿線にはこれまで多くの作家たちが暮らし、また多くの文学作品に沿線の風景が描かれてきました。

世田谷線が開通した1925年に、若き日の林芙美子、壺井栄、平林たい子が身を寄せ合うように長屋暮らしを始めた三軒茶屋。川上未映子『黄色い家』でも、三軒茶屋は女性たちの奇妙な共同生活の舞台として登場します。柴崎友香『わたしがいないかった街で』では、日本SFの父とされる海野十三が長く暮らした若林に住む「わたし」が、終戦前後の海野の日記に記された場所を65年の時を経て辿ります。たった10駅しかない世田谷線ですが、それぞれのまちにそれぞれの物語が、幾重にも重なりながら息づいています。

本展では、世田谷線開通以降2025年までの100年のあいだ、この沿線で紡がれたたくさんの物語を、作家たちのエピソードも交えながら190点の収蔵品と鉄道資料でご紹介しました。



展示風景 撮影：栗原論

収蔵品紹介

横溝正史日記と海野十三書簡

世田谷文学館では、主として明治以降の世田谷区にゆかりのある文学と文学者に関する資料を収集し、現在、10 万点以上の資料を収蔵しています。その中から探偵作家に関連する資料をご紹介します。

〈横溝正史日記〉

世田谷文学館が収蔵する横溝正史の日記は 25 点。そのうち、昭和 10 年の日記は横溝が長野県の上諏訪で結核の療養をしていた時期に書かれた日記です。

日記には原稿の執筆状況の他、体温や咯血など体調が詳しく記され、横溝が健康状態に気を使っていたことが察せられます。一日の出来事も記録されており、来信や来客、家族の様子など上諏訪での療養生活の一端を知ることができます。

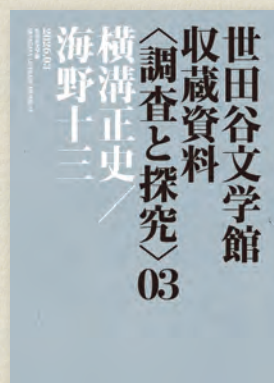
〈海野十三 横溝正史あて書簡〉

戦後、横溝正史の疎開先の住所を人づてに聞いた探偵作家仲間の海野十三は、岡山にいた横溝に手紙を送ります。その後、横溝は海野の助力もあって、昭和 23 年に世田谷区の成城へと移り住みますが、若林に住んでいた海野も結核療養中の身であり、ともに外出が難しかったため、両者の文通は続き、連日書簡のやり取りがなされています。残念ながら横溝から海野へあてた書簡は見つかっていませんが、海野の書簡からは両者の交流の様子をうかがうことができます。

書簡の内容は探偵作家らしく探偵雑誌のことや原稿のこと、探偵作家仲間のことが記されています。また、読んだ本の話や家族の話など話題は多岐にわたっており、戦後の世情を知る上でも貴重な資料となっています。

上記の資料は、いずれも横溝正史の手元に残されていたもので、横溝正史夫人の横溝孝子氏から寄贈されたものです。今回紹介した資料の一部は資料集『世田谷文学館収蔵資料〈調査と探究〉03 横溝正史／海野十三』として世田谷文学館のホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

世田谷文学館 HP
コレクションページ



「収蔵資料〈調査と探究〉03 横溝正史／海野十三」 2026年3月刊行

新資料紹介

2026 年度に収蔵した資料の一部をご紹介します。

〈海野十三書簡〉

新収蔵の「海野十三発佐野英あて書簡」は、海野が昭和17年に海軍報道班員としてラバウルに赴任していた際に、妻の英あてに送った書簡です。基地や島での食事の様子などを現地から伝えています。

〈宇野千代関連資料〉

「生きて行く私」などで知られる作家・宇野千代のゆかりの品々を新たに収蔵しました。山口県岩国に生まれた千代の、岩国高等女学校時代の作文「秋の山に遊ぶ」「端午に友をまねく文」「秋の夕」には教師からの朱入れが入っています。この作文は千代本人が大切に保管していたもので、文筆の道への初心を感じることができます。

〈青山光二関連資料〉

青山光二は任侠小説の一群で知られる作家ですが、後年には私小説に回帰し、90歳で第29回川端康成文学賞を受賞しています。同賞を受賞した「吾妹子哀し」の原稿に続き、「吾妹子哀し」収録の続編「無限回廊」の原稿などを新たに収蔵しました。「埋葬」「若き日の闘い」と題された未定稿資料一式からは、初期の作品に未発表原稿を加え、「若き日」をふりかえる一冊の本を編もうとしていたことがうかがえます。

〈榎本了壺「寺山修司と天井棧敷」〉

寺山修司と寺山が1967年に設立した演劇実験室「天井棧敷」の活動を中心に、四方へ枝葉をひろげたメモリーツリー状のマップは、榎本が和紙に鉛筆で手書きしたもの。寺山修司が様々な領域を越えて活躍したことをあらわすとともに、同時代のカルチャーを一望できる人脈図となっています。

〈菅野昭正関連資料〉

仏文学者の菅野昭正は世田谷文学館の名誉館長です。最後の著書となった『小説と映画の世紀』（未来社）は20世紀を代表する原作小説と映画を比較したもので、激動の時代に揺れ動く社会や思想にも目を向けています。収蔵された同書の直筆原稿は、「A.Kanno」と刷られた専用箋に鉛筆で書かれ、整然と並べられた文字と、時折見受けられる修正の跡が、思考の蓄積をあらわしています。

令和7年度資料受贈報告（1）

榎本了壺様、菅野三重様、澤澄子様、鈴木江利様、藤江桂子様、茉莉デイベイ様（五十音順）

令和6年度(2024-2025) 協賛企業一覧

株式会社ウテナ、鳥山駅前通り商店街振興組合、JA 東京中央、昭和信用金庫、世田谷信用金庫、東邦ホールディングス株式会社、芦花公園商店街振興組合 (50音順)

令和7年度(2025-2026) 協賛企業一覧

株式会社ウテナ、鳥山駅前通り商店街振興組合、JA 東京中央、昭和信用金庫、世田谷サービス公社、世田谷信用金庫、東邦ホールディングス株式会社、芦花公園商店街振興組合 (50音順)

協賛いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

資料受贈報告(2)

2025年2月1日～2026年1月31日

内田麟太郎様 江里昭彦様 大関定夫様 大畑照美様 大矢芳弘様 河合拓始様 齋藤芳生様 佐々木啓子様 佐藤りえ様 四宮義正様 田代卓様 角田正宏様 戸島由紀子様 林桂様 福嶋朝治様 藤本寿彦様 諸谷香恵様 横山美代子様 Dr.Yuki Lock Shiose

あきは詩書工房 アジア文化社文芸思潮出版部 ニ崎芸術文化協会 石川県立美術館 伊豆文学フェスティバル実行委員会 市川市文学ミュージアム 一茶記念館 井上靖記念文化財団 井上靖研究会茨木市立川端康成文学館 射水市大島給本館 いわき市立教育文化事業団 いわき市立草野心平記念文学館 印刷博物館 うらわ美術館 愛媛人物博物館 遠藤周作文学館 大岡信研究会 賀川豊彦記念松沢資料館 学習院大学史料館 KADOKAWA 神奈川近代文学館 金沢文化振興財団 紙の博物館 川崎市大山街道ふるさと館 川崎市市民ミュージアム 北九州市漫画ミュージアム 北九州市立松本清張記念館 北区立赤羽岩淵中学校文芸部 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 京都 Re-Search 実行委員会 近代作家旧蔵書研究会 クマヒラ・ホールディングス 黒澤明研究会 群馬県立土屋文明記念文学館 慶応義塾大学アート・センター 現代女性文化研究所 ゲンロン 高知県立文学館 こおりやま文学の森資料館国立新美術館 國學院大学文学部博物館研究室 国文学研究資料館 駒澤大学禅文化歴史博物館 古賀政男音楽博物館 越谷市立図書館野口富士男文庫 熊本県立図書館くまもと文学・歴史館 小諸市教育委員会 さいたま市立大宮図書館 さいたま文学館 斎藤茂吉記念館 堺市博物館 サントリー美術館 四季派学会 司馬遼太郎記念館 渋沢史料館 勝央美術文学館 春陽堂書店 松栄堂 小学館 書肆侃侃房 常総市教育委員会 昭和女子大学近代文化研究所 白鳥吾吾研究会 白百合女子大学言語・文学研究センター 新宿区立漱石山房記念館 杉並区立郷土博物館 鈴鹿市文化スポーツ課 砂町文化センター石田波郷記念館 成城大学教務部教務課学芸員過程 芹沢文学研究会 田原市博物館 たましん地域文化財団歴史資料室 多摩美術大学 多摩美術大学アートとデザインの人類学研究所 田山花袋記念文学館 運筆堂文庫 調布市武者小路実篤記念館 東京都江戸東京博物館 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー 徳島県立文学書道館 豊島区立郷土資料館 豊島区立熊谷守一美術館 豊島区立トキワ荘マンガミュージアム ドナルド・キーン・センター柏崎 富山県歌人連盟 富山県芸術文化協会 鳥の事務所 中原中也記念館 新美南吉記念館 日本近代文学館 日本現代詩歌文学館 日本歌人クラブ 日本詩人クラブ 日本SF大会 日本トルストイ協会 沼津市芹沢光治良記念館 沼津市若山牧水記念館 野村胡堂・あらえびす記念館 萩原朔太郎研究会 パナソニック汐留美術館 飯能市教育委員会 姫路文学館 福井県ふるさと文学館 ふくやま文学館 藤沢周平記念館 ふらり 文学座 文化書房博文社 文京区立森鷗外記念館 文京ふるさと歴史館 北海道文学館 北海道立文化館 前橋文学館 松山市立子規記念博物館 三浦綾子記念文学館 岬の分教場保存会 宮沢賢治学会イーハートブセンター 武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史観 武蔵野美術大学美術館・図書館 明治図書出版株式会社 目黒区美術館 野球殿堂博物館 柳田國男・松岡家記念館 山梨県立文学館 やまなし文学賞実行委員会事務局 横光利一文学会 横浜市民ギャラリーあざみ野 吉川弘文館 吉村昭記念文学館 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター 立教大学学校・社会教育課程講座学芸員過程 和歌山県立近代美術館 早稲田大学會津八一記念博物館 早稲田大学国際文学館村上春樹ライブラリー 早稲田大学大学院教育研究科

「海」「海紅」「街道」「カプリチオ」「経堂雑記」「今日の花」「原型富山」「心の花」「佐佐木信綱研究」「鹿首」「抒情文芸」「駿河台文芸」「川柳研究」「藍」「短歌人」「地中海」「飛火」「白雲」「風」「プチ★モンド」「文藝軌道」「文芸思潮」「文章歩道」「焰」「本のバーキング」「窓」「与謝野晶子の世界」「ランブル」「暦日」

(五十音順・団体名敬称略)

展覧会

展覧会名	会期	日数(日)	一般観覧料(円)	観覧者人数(人)
◎コレクション展				
【前期】 海野十三と日本SF	2025/4/26～9/28	134	200	20,698
【後期】 世田谷線・100年間のものがたり	10/18～2026/3/31	136	220	8,034
◎企画展				
士郎正宗の世界展 ～ 「攻殻機動隊」と創造の軌跡～	4/12～8/17	110	1,500	57,155
ドナルド・キーン展 Seeds in the Heart	11/15～2026/3/8	93	1,000	8,996

ライブラリー・講義室等

施設	利用人数(人)
ライブラリー	25,989
講義室	1,280
くつろぎスペース	4,050

文学資料収集・保管

	点数
令和7年度収蔵点数	176
令和8年3/31現在の収蔵点数	107,413
資料貸付	16
特別閲覧件数(点数)	39
特別観覧件数(撮影点数)	122

刊行物

	判型	頒価(円・税込)
●世田谷文学館ニュース		
第82号	A4/8	無料
巻頭エッセイ「眩しい光、自由の影 椎名麟三のアーナーキー」 亀山郁夫(世田谷文学館館長)/2025年度開館30周年記念事業のご案内/ 2024年度展覧会事業のご案内		
●図録		
『士郎正宗の世界～「攻殻機動隊」と創造の軌跡～』 (PARCO出版より士郎正宗展にあわせて刊行)	A4/192	4,180円
『ドナルド・キーン展 Seeds in the Heart』	A5/112	1,300円
●その他		
資料集「世田谷文学館収蔵資料〈調査と探求〉03 横溝正史/海野十三」	B5/128	無料
世田谷文学館開館30周年記念誌	B5/80	無料
移動文学館 出張展示キット 貸出案内パンフレット	A5/48	無料
どこでも文学館報告書 2025	B2[4つ折り]/1	無料

年間利用者数

497,887人



ワークショップ「ことばとからだ」
講師：日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部



ドナルド・キーン展関連イベント 浄瑠璃
出演：越後角太夫(キーン誠己)

普及事業：ワークショップ・講演会ほか

内 容	開催日	参加人数(人)
●どこでも文学館（ワークショップ）		
だれでも小説家 〜ショートショートを書こう〜 講師：荒居 蘭(作家)	8/7、8/8	28
高校生向けワークショップ 生業さがし 一出版社見学〜 講師：馬宮守人(新潮社)	8/27	8
ダンスワークショップ 「ことばとからだ からだで冒険！」 講師：日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部(顧問：高野美和子)	12/14	13
朗読ワークショップ もっと朗読を楽しもう 〜プロの読み方を聞いてやってみよう〜 講師：堀越富三郎(俳優・声優)、きみづか縁(俳優・声優)	1/23	176
演劇ワークショップ こえとことばの実験室 講師：福本鴻介(俳優)、太田緑ロランス(俳優)	1/24	9
だれでも探検家 講師：高橋大輔(探検家)	3/21	8
●士郎正宗展関連イベント		
士郎正宗展関連イベント シロマサ語り 20 連発 士郎正宗のココスキ!	6/29	59
●ドナルド・キーン展関連イベント		
記念講演 出演：御厨貴(政治学者)	11/16	59
〈英語〉狂言・歌舞伎会 出演：ローレンス・コミンズ(ポर्टランド州立大学名誉教授) ほか	11/23	91
ギャラリートーク 出演：室瀬和美(漆芸家)、木下幹久(数寄屋大工)、キーン誠己(ドナルド・キーン記念財団代表理事)	1/26	54
源氏物語記念対談 出演：榎矢まりえ(俳人)、森山恵(詩人)	2/14	135
浄瑠璃 出演：越後角太夫 (三味線奏者・キーン誠己)	2/23	150
「日本文学史」講演会 出演：角地幸男(翻訳家)	3/1	157
●コレクション展関連イベント		
ムットーニ コレクション 口上つき上演会(前期コレクション展)	6/28、29	138
ムットーニ (武藤政彦)		
ムットーニ コレクション 口上つき上演会(後期コレクション展)	2/8	56
ムットーニ (武藤政彦)		
講演会「文学の世界に走る世田谷線の百年史」 講師：三瓶嶺良(世田谷線研究家)	2/21	60
●開館30周年記念事業		
セタブン30 祭 上映会 やなせたかしシネマ	8/30	75
【記念シンポジウム】文学、この素晴らしいもの ― 21 世紀の文学と文学館の役割 パネリスト：荻野アンナ(神奈川近代文学館館長・作家)、鴻巣友季子(公益財団法人せたがや文化財団理事・翻訳家)、坂坂展人(世田谷区長)、亀山郁夫(世田谷文学館館長・ロシア文学者) ファシリテーター：紅野謙介(公益財団法人日本近代文学館専務理事・日本近代文学研究者)	9/6	95
【トーク&ライブ】岩井俊二 絵と詩と歌/小説と音楽 出演：岩井俊二(映画監督)、篠原一朗(開き手/水鈴社代表取締役)、吉田幸央(ピアノ)、荒井桃子(ヴァイオリン)、林田順平(チェロ)	10/5	125
【連続講座】世界文学への誘い 〜愛について〜 ①第1回 講師：沼野充義(ロシア東欧文学研究者、東京大学・名古屋外国語大学名誉教授) ②第2回 講師：藤井省三(東京大学名誉教授、名古屋外国語大学教授) ③第3回 講師：野谷文昭(翻訳家、東京大学・名古屋外国語大学名誉教授)、長浜奈津子(女優、朗読家) ④第4回 講師：くぼたのぞみ(翻訳家、詩人) ⑤第5回 講師：亀山郁夫	①9/21 ②10/19 ③10/25 ④11/1 ⑤11/2	244
【展覧会】セタブン30 祭 1995-2025	10/7〜11/16	512
講演会 詩と小説と世界 ― 昭和期の名作 講師：荒川洋治(詩人)	10/18	82
世田谷線貸切朗読会「つむじ風食堂の夜」 出演：吉田篤弘(作家)	11/8	56
東京都書店商業組合共催トークイベント「室井滋さんと本の話」 出演：室井滋(女優、高志の国文学館館長) 聞き手：平尾隆弘(文藝春秋元社長)	2/7	268
●文学サロン		
セタブンマーケット	11/29、30	3301
●文学散歩		
文学散歩「キーンさんが愛した町」1	2/28	7
文学散歩「キーンさんが愛した町」2	3/6	7
合計		5,973

普及事業：どこでも文学館（出張展示）

展覧会名（無料）	開催日	開催場所	観覧者数（人）
やなせたかしの新アラビアンナイト	5/1～2026/3/31	川場村 ふじやまビレッジ	13,553
	6/6～6/30	弦巻中学校	495
	7/23～8/31	中央図書館	63,237
	9/4～10/7	せたがやイーグレットホール	1,190
	10/18～10/19	代田区民センター・代田図書館	300
	11/5～11/26	世田谷小学校	509
ヨシタケシンスケさんの絵本 ～きみだったらどうする？	6/4～7/24	駒留中学校	310
	9/1～9/26	池之上小学校	343
	10/25～10/26	田園調布雙葉中学高等学校	2,000
	10/23～12/03	桜丘幼稚園	68
	11/5～11/26	三宿中学校	377
	12/4～1/14	上祖師谷中学校	530
	1/15～2/20	代沢小学校	551
	1/22～2/17	潮来市 市立図書館	7,484
	2/27～3/13	千歳中学校	643
	8/5～8/26	コミュニティカフェなつこのこ	1,000
水丸さんのがたんごとん	10/2～10/31	山崎小学校	368
	11/10	経堂コルティ	176
	11/20	山梨県立文学館	202
	11/26～12/26	教育総合センター	950
	3/13～3/14	URアクティ3軒茶屋5号棟集会所	38
	10/2～10/31	上馬まちづくりセンター	3,600
宮西達也と子どもたち	11/12～11/21	桜丘小学校	948
	1/9～1/29	芦花小学校	1,044
	2/20～3/11	田園調布せせらぎ館	1,200
	6/20～7/23	中央図書館	47,949
目と耳で出あう寺山修司 詩と演劇	8/6～9/4	せたがやイーグレットホール	870
	11/14～12/10	下馬図書館	2,000
	10/18	和光市民文化センター サンアゼリア	40
	10/25	蕨市立 蕨市民会館	10
台湾はどんな国？ （文学・スポーツ編）	11/1	吉川市民交流センター おあしす	30
	11/4～11/9	秩父市地場産業センター	200
	11/15	東松山市総合会館	30
	11/4～11/28	上祖師谷中学校	530
SF 入門 星新一 Vol.1	10/2～11/5	八幡小学校	338
SF 入門 星新一 Vol.2	1/9～1/30	駒沢中学校	309
若草物語 -Little Women-	8/28～10/17	名取市 市立図書館	46,285
	11/3～11/28	芦花小学校	1,044
セタブン人生相談 あなたのための人生処方箋	11/1～11/12	田園調布せせらぎ館	1,200
	3/2～3/25	駒沢中学校	309
大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地	10/18～11/16	絵本の店 あっぷぷ	500
	11/29～1/25	東近江市 八日市図書館	2,500
	2/15～3/31	中央図書館	56,684
大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界	11/29～1/25	東近江市 八日市図書館	2,500
井上ひさし ふかいことをゆかいに	10/1～10/30	上祖師谷中学校	530
シートン動物記	10/2～11/5	八幡小学校	338
詩人 萩原朔太郎	10/9～11/18	潮来市立図書館	11,998
山へ! to the mountains	12/10～2/10	中央図書館	77,424
北杜夫 どくとるマンボウ昆虫展	5/1～3/31	川場村 なかのビレッジB棟	10,348

【普及事業について】

「どこでも文学館」は「いつでも、どこでも、だれでも参加できる文学館」というコンセプトのもと、ワークショップを実施しています。館外でも学校や地域と連携しながら出張展示を行い、文学にふれる機会を提供しています。

また、展覧会の関連企画としたトークイベントや連続講座なども開催しています。イベントの情報は世田谷文学館ホームページをご覧ください。



世田谷文学館

東京都世田谷区南烏山1-10-10

京王線「芦花公園駅」徒歩5分

TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120

HP <https://www.setabun.or.jp/>

世田谷文学館は、1995年に東京23区では初の地域総合文学館として開館しました。

区にゆかりのある作家の原稿・初版本、書簡・遺愛の品々等を展示するコレクション展に加え、文学を軸にマンガ、映画、美術、デザイン、音楽など近接する諸分野も視野に入れて、横断的に特色ある企画展を開催しています。また、マーケットや出張展示など、地域と連携した様々な活動を展開しています。



開館時間 | 10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで)

休 館 日 | 毎週月曜日(ただし月曜が祝・休日の場合は開館し、翌平日休館)、年末年始(12/29～1/3)

観 覧 料 | コレクション展：一般 220円他(企画展は、展覧会によって料金が異なります)

ライブラリー ほんとわ

ライブラリー“ほんとわ”は、幅広い世代にむけた本との出会いの場です。授乳室を備えたベビー&キッズエリアでは、絵本や児童文学を楽しめます。

選書コーナーでは、書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を提案していきます。



※館外貸出は行っておりません。

※閉架図書の閲覧申請の受付時間は、

10:00～12:00及び13:00～17:30です。

※収蔵資料の閲覧については事前申込が必要な場合もあります。

あらかじめお問合せください。

講義室

世田谷区内に在住、在勤、在学する方を主なメンバーとするグループ(5名以上)が、文学に関する活動に利用できます(無料)。お申し込みは3ヶ月前からです。



喫茶どんぐり

中庭を眺めながらくつろいでいただける喫茶室です。

営業時間 11:00～17:00

(ラストオーダー 16:30)

TEL 03-5374-9119